

2015.3 No. 30



佐賀大学病院ニュース

患者・医師に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

在宅医療支援体制の地域モデル構築について

救命救急センター

教授 阪本雄一郎



ハートセンター 循環器内科

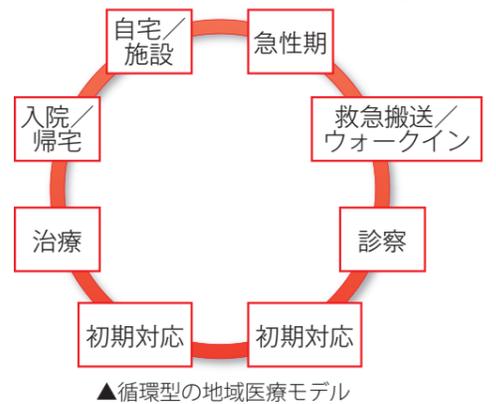
教授 野出 孝一



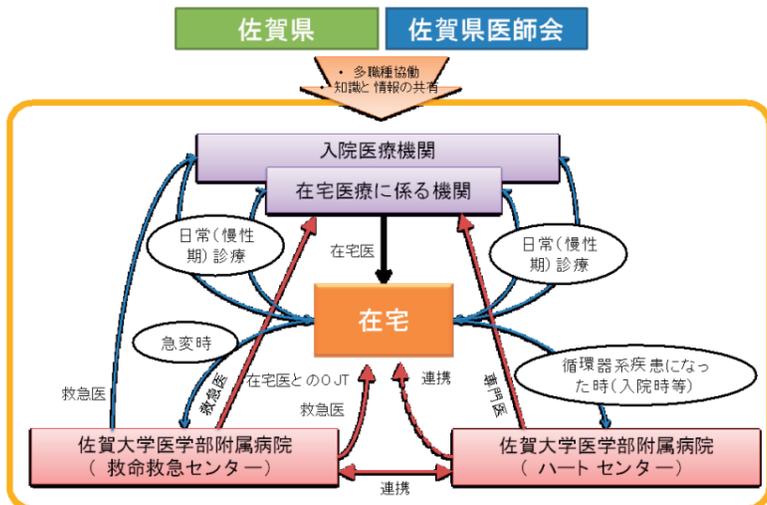
救命救急センターは、ハートセンターとの連携によって在宅医療への支援体制の地域モデルを構築するための取組をはじめます。

2025年問題である超高齢社会へ向け、我が国の医療提供体制は医療機関や介護保健施設等から在宅医療へと大きくシフトしてきています。全国的に在宅医療へのニーズは増加していますが、提供体制は構築の途上にあるのが現状です。また、医師不足を解消するだけでは、医療の質を維持しながら在宅医療の効果的な連携体制を構築するのは困難です。そこで、既存の医療資源を有効活用し、来る超高齢社会に向けた在宅医療を支える体制を整備しようとしています。この取組は、佐賀県と佐賀県医師会の全面的な協力の下で実施され、地域モデルの構築を目指すものでもあります。地域モデルを構築することで、特に地方では獲得が困難な救急医の確保と、増加が著しい心疾患（特に心不全）への対策を講ずるものです。

また、2025年問題の他の側面として重症患者さんが地域の基幹病院へ集中し、病床が滞ってしまう問題が予想されます。特に慢性心不全は入院期間の長さから多くの急性期病院に敬遠され、地域や在宅への復帰の試みも、緊急入院や専門的治療を必要とする場合が多く、受け皿となる施設が少ないのが現状です。このためハートセンターの循環器内科医と連携し、循環型地域医療モデルの創出により地域全体で持続可能な在宅医療支援体制の構築を目指します。



▲循環型の地域医療モデル



就任挨拶



小児科学講座 教授 松尾 宗明

平成26年12月1日付で小児科教授に就任いたしました松尾宗明です。小児科は、子どもたちの総合診療医であるとともに、育児・健康支援者としての役割、子どもたちや障がい者とその家族の代弁者としての役割も担っています。私の専門は神経疾患ですが、他に循環器、血液・腫瘍、腎臓、アレルギー・呼吸器、感染・免疫、新生児、消化器・肝臓、代謝・内分泌などの各専門分野の医師たちが協力して、子どもたちとその家族のために最善の医療を提供できるよう努めています。今後は、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、口腔外科など外科系の診療科の先生方やリハビリテーション科など関連分野と連携して、水頭症、二分脊椎、頭蓋骨早期癒合症などの先天異常の子どもたちへの集学的な治療体制を整備していく予定です。どうぞよろしくお申し込み申し上げます。



脳神経外科講座 教授 阿部 竜也

平成26年12月1日付で、佐賀大学医学部脳神経外科科学講座の教授に就任いたしました阿部竜也です。

脳神経外科は、新生児から高齢者にいたる神経疾患の外科治療を担当しており、疾患も脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患、小児疾患、機能的疾患など多岐に渡ります。また、治療も手術に加え、脳血管内治療、放射線治療、薬物療法など様々な方法を適切に組み合わせて行うことによって低侵襲治療を行い、脳機能の維持・回復を目指しております。

さまざまな脳疾患に対応するため、県内外の医療機関や他診療科との密な連携を行い、安全で高度な医療の提供を行っております。具体的には、MRIなどを用いて脳機能の可視化に加え、術中各種モニタリングや覚醒下手術などを併用しながら手術を行い、治療成績の向上に努めています。

各疾患に対するエキスパートを揃え、救急患者さんへは24時間対応しております。佐賀県の脳神経外科診療の向上に努めますので、今後ともどうぞよろしくお申し込み申し上げます。

平成26年度 病院長賞

平成26年度は、医療技術の向上や患者サービスに貢献した左記の職員を表彰いたしました。



形成外科 診療教授 上村 哲司



検査部 臨床検査技師 梅木 俊晴



地域医療科学 教育研究センター センター長(教授) 小田 康友

6階東病棟スタッフ

平成26年12月1日付で、地域医療科学教育研究センター・医療教育部門教授、27年1月1日付で同センター長を拝命しました。

医療教育部門は、本学医学教育の中核となる機能を担っています。教育の評価・開発を中心としながら、1・2年次医学生への大学入門教育、3・4年次の能動的学習（問題基盤型学習やチーム基盤型学習）、4～5年の臨床技能試験の企画運営、臨床実習のプログラム開発、及び国際交流を主業務としてきました。医学生への医療面接（問診）トレーニングの相手を務める模擬患者団体も、地域の皆様のご協力を得て、運営しています。

日本の医学教育は、この20年で知識偏重から実践の重視へと大きく様変わりしましたが、ここから先の10年で、もう一段階の大変貌を遂げます。その方向性としては、第一に、国際的な医学教育の標準に基づいて本学医学教育の目標、教育方略、評価を再設計することであり、第二に、地域社会や現場の医療者、学生のニーズにいち早く対応できる柔軟性をもつことです。

佐賀の地で育て上げ、世界的視野と水準での医療を日本に、佐賀の地に還元できる医学教育システム構築を目指して、努めてまいります。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお申し込み申し上げます。

在宅医療支援体制の地域モデル構築について

就任挨拶

平成26年度病院長賞

認定看護師の役割と活動

本院では、専門的で質の高い看護を提供できるよう、専門看護師・認定看護師の資格取得に力を注いでいます。新しく資格を取得した看護師を紹介します。

手術看護認定看護師

手術部 大石 美華



手術看護認定看護師に認定されました。外来・病棟看護師と連携し、患者さん・ご家族が安心していただける質の高い周術期看護を提供していきたいと考えています。共に働く多職種が笑顔で専門性を発揮できるチーム医療を推進していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

乳がん看護認定看護師

総合外来 白濱 泉



乳がんは女性のがん罹患率第一位であり、12人に1人が乳がんになる時代と言われています。いろんな役割を持ちながら治療に取り組む女性たちを支えるため、外来で治療方針決定時から術後の生活支援、化学療法・内分泌療法などの支援を行っています。

緩和ケア認定看護師

6階東病棟 野中 由美



昨年認定を受け、外科病棟で勤務しています。治療期における苦痛症状の緩和・意思決定支援に対する実践・指導に努めています。その人らしさを尊重しながら「生活の質」「生き方の質」を患者さん・ご家族と共に考え、提供できることを目指しています。

救急看護認定看護師

EICU 松尾 照美



生命の危機的状況に陥ることも少なくない救急患者に対し、プレホスピタルから社会復帰までを見据えた看護を提供できるように努めています。そのため、急変時対応や集中治療看護、家族看護等について、スタッフと共に考え実践しています。

診療科紹介

眼科

診療科長 江内田 寛



本院眼科はかねてより佐賀県の眼科診療の中核を担ってきました。情報化社会の現在では情報の80%以上は視覚を通じて得られるといわれており、視機能の低下は日常生活のQOLを著しく低下させます。そのため本院眼科では新生児から高齢者に生じる幅広い眼疾患に対し、良質の治療の実践を目指しています。

近年白内障手術に代表されるように年々眼科手術は低侵襲化しており、日帰り手術なども広く行われるようになってきました。そのような環境のなかで本院眼科の役割は、主に重症例や全身を含め複雑な合併症をもつ患者さんの眼科手術を基盤にした眼科治療や、入

院による高度な管理が必要な疾患への加療などを主として担当しています。現在我々が取り扱う代表的な疾患は、網膜剥離、重症の糖尿病網膜症などの網膜・硝子体疾患に対する手術を中心に、薬物によるコントロールが不能になった緑内障に対する手術治療、通常の日帰り手術が困難な高度の合併症を有した白内障手術などに加え、小児の斜視手術、角膜移植手術や外傷など多岐にわたります。また手術治療以外にも原田病など重症のぶどう膜炎や視神経炎などへの大量ステロイド治療なども本院で行われる代表例です。これらを専門のスタッフが複数で担当しています。これらに加

え、外来診療ではご紹介いただいた患者さんの眼科診療に加え、近年では加齢黄斑変性などに対する分子標的療法（注射治療）なども積極的に取り組んでいます。また、本院眼科は診療活動と平行し、将来の佐賀県の眼科医療を担う若手眼科医師の育成や、様々な研究活動などにも従事しています。

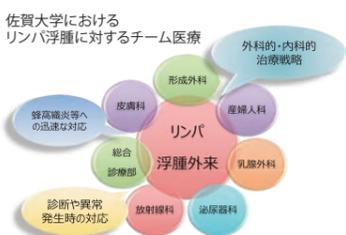
大学病院の眼科での診療は医師数や検査などの時間を含めると時間がかかることが全国的な問題となっています。本院では術後や病勢が落ち着いた患者さんについては、積極的に地域の診療所と連携を推進しており、待ち時間を含む診療時間の緩和にご協力いただいています。

リンパ浮腫に対するチーム医療について

リンパ浮腫は乳がんや子宮がん、卵巣がんでリンパ節を切除したり放射線照射を行ったたりした患者さんの合併症として生じる疾患です。これまでは治療できる施設があまりなく、多くの患者さんががん治療終了後も治らない手や足のむくみに悩んできました。

本院では各病棟で術後の患者さんに対してリンパ浮腫予防の情報提供を行うとともに、平成21年から専門看護師によるリンパ浮腫外来を開設して治療を行っています。

近年では圧迫療法・リンパドレナージ・運動療法などの複合的理学療法に加



リンパ浮腫治療（代表例）

複合的理学療法と外科治療を組み合わせることで、よりよい効果が期待できる



形成外科 講師 菊池 守

え、流れの停滞したリンパ管を静脈に流しこむリンパ管静脈吻合術など治療が多様化してきています。本院では複数科、多職種によるリンパ浮腫診療ワーキンググループを組織し、患者さんごとに最適な治療方針を検討しています。

また、リンパ浮腫治療では、病院での治療に加えて圧迫療法や運動療法などのセルフケアを各自宅でも続けていただくことが重要です。医療スタッフと患者さんご自身・ご家族がひとつのチームとなり治療に取り組むことが必要です。

連携病院紹介 特定医療法人 祐愛会織田病院

当院は公的病院のない鹿島市にあって「民間といえども個人のものではなく社会の公器である」との考えで、2002年には特定医療法人となり、開放型病床（登録医46名）の認可を受けました。病床数は（一般）111床で、2006年からはDPC対象病院となり、急性期医療を中心に専門的医療も担えるように努めてきました。診療科目は、内科、外科、消化器内科、循環器科、脳神経外科、形成外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科を標榜しており、常勤医師27名を配置しています。しかし、当院だけで対応できない高度医療を必要とする症例も多く、佐賀大学病院の先生方には、年間180件近

くの紹介をさせていただいております。時間外であっても、いつも快く対応していただき心より感謝しております。現在の鹿島市は、すでに高齢化率が28%であり、後期高齢者数が前期高齢者数を上回っています。この年齢人口構成の変化に伴い、入院受療率が高くなってきており、中でも85歳以上の高齢者の緊急入院が急増しています。そこで、地域の医療機関や在宅介護サービスとシームレスな連携を進め、在宅医療の充実とともに、地域包括ケアシステムとの一体化にも積極的に取り組んでいます。地域医療を守る上で、佐賀大学病院の皆様のバックアップが必要だと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



院長 伊山 明宏

平成26年度 文化コーナー

たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。優秀作品に選ばれた方々の作品を紹介します。また、病院ホームページや外来ロビー等に全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。

文化コーナー担当 南里 悠介



▲院内学級の児童生徒による共同作品

俳句（社）日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人 木下みね子・万沙羅（選）

- 寄鍋や 一家で快気 祝ふ宴 小林 禮子さん
- 受験子の 未来を開く 筆走る 鍋島の龍馬さん
- 願はくば 百まで生きむ 菊日和 江口 信義さん
- 川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）
- 麻酔さめ 不安和らぐ 医師の笑み 今田 真人さん
- 看護師の ふるさとなまり 癒される 今田 香世さん
- 天山と あたまの白さ 比べてる 758の女さん
- 真夜中の 私と影と 二人づれ 江口喜美子さん